

平成30年8月定例教育委員会会議録

平成30年塩尻市教育委員会8月定例教育委員会が、平成30年8月23日、午前9時00分、市民交流センター4階401会議室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 9月の行事予定について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 塩尻市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱に係る専決処分報告について

4 議 事

- 議事第1号 学校職員に対する指導上の措置について<非公開>

5 その他

- その他第1号 平成30年度教育委員会関係補正予算（案）について
その他第2号 教育委員会事務局に係る例規の改正（案）について
その他第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
その他第4号 平成30年度第32回全国短歌フォーラム in 塩尻（一般の部）投稿数について

6 閉 会

○ 出席委員

教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和
委員	林 貞 子	委員	嶋 崎 栄 子
委員	石 井 勉		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長（新体育館建設プロジェクトリーダー）	中 野 昭 彦	市民交流センター・生涯学習部長	中 野 実 佐 雄
こども教育部次長（家庭支援課長）	百 瀬 公 章	市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長）	胡 桃 慶 三

教育総務課長	太田文和	スポーツ推進課長	田下高秋
こども課長	青木正典	男女共同参画・若者サポート課長	嶋崎豊
子育て支援センター所長	羽多野紀子	交流支援課長	山崎浩明
学校教育指導員	櫻井隆夫	図書館長	上條史生

○ 事務局出席者

教育企画係長 横山朝征

1 開会

山田教育長 それでは皆さん、おはようございます。ただいまから8月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

「本当に暑かった今年の夏から少し解放される…」と言おうと思いましたが、きょう総文からここまで来る間の真っ青な空から照らされる直射日光にラジオ体操の後の体から汗が噴き出して大変でありました。それでもようやく先週あたりから朝夕の涼しさが感じられるようになりまして、秋の虫の声も少しずつさやかに聞かれるようになってまいりました。

さて、本日は会場をえんぱ一くに移しての定例教育委員会の開催です。知恵の交流を通じた人づくりの場としてこの施設が開設されたのが平成22年でありますので、今年で8年目を迎えております。この間、当初の想定を上回る来館者があり、昨年度は68万8,000人余、また開館以来の本年7月までの総来館者数は何と521万4,000人余となっております。今朝もフリースペースには既に何人かの人が集まって1日を始める準備をしておりました。この施設はハード、ソフト両面で内外の多方面から注目されております。塩尻市のブランドとして誇れるまでに育ってきたのではないかと考えております。えんぱ一くと、来年6月に開館を予定しているえんてらすは、ともに事業の主体となっているのが教育委員会事務局関係の各部署であります。両施設とも、これからも交流を通じた人づくりの場として豊かな人間性と創造性を備えた人を育み続けていくことのできる施設として発展させていきたいと願うところであります。

2 前回会議録の承認

山田教育長 それでは、次第に従いまして2番、前回会議録の承認について事務局からお願いいたします。

横山教育企画係長 前回7月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

では、そのようにお願いいたします。

3 教育長報告

山田教育長 続いて3番、教育長報告に移ります。本日はここえんぱ一くでの開催としておりますので、初めに、えんぱ一くにおける本年度の活動状況や事業推進の状況について、その概要を報告いたします。また、前回7月の定例教育委員会以降の行事のうち、広島平和研修と平和祈念の集いについて、また第42回全国高等学校総合文化祭、2018信州総文祭について考えたことをお話をしたいと思います。量が多いので少し早口で失礼いたしますが、よろしくお願いいたします。

初めに、えんぱ一くにおける事業展開の状況について概況を報告します。塩尻市市民交流センターえんぱ一くの公式ホームページに入りますと、まず目につくのは、えんぱ一くや図書館の大きな写真であります。そしてその下に並ぶ交流支援課、それから子育て支援センター、市立図書館それ

それぞれのフェイスブックの入り口が目にとまります。それぞれのフェイスブックを開いていきますと、これから取り組もうとしていること、それから今まで取り組んだ行事の様子、感想、反響など、多くの写真とともにリアルタイムに情報として提供され、受け取ることでできるようになっております。こうしたものを見ただけでも、えんぱ一くは多くの市民の交流の基地であり、学びの基地として機能していることがよくわかります。ぜひ委員の皆さん方もフェイスブックの内容を見ていただければありがたいと思います。

さて、今年度に入ってから利用状況ですが、引き続き多くの皆さんに利用され続けております。特に今年の夏は暑さが厳しく、クールシェアスポットとしての機能もあつたのでしょうか。この間の利用も順調に推移しております。多くの皆様がこの施設に集う背景として忘れてはならないことは、やはりここに来ればそれぞれの市民の皆さんの求めていることがかなうという、そうした魅力ではないかと私は思います。

交流支援課では、えんぱ一くで夢を見つけようということで、中高生が地域で活躍するプロフェッショナル人材と直接向き合い、話を聞いたり実際の仕事体験をしたりして参加者がみずからの夢を見つめる機会としております。また、tent学校とはちょっと違う学びでは、小学生向けにアロマオイルの調合によってゴッホやモネの絵画を香りで表現するなど、信大生の提供する学校の教科とはちょっと違った遊びの学びを楽しむ、そんな機会もふえてきております。

図書館では、夏休み宿題応援隊や8分館の夏休み工作で長期休業中の児童をサポートしていただきました。多くの子供たちがこの機会に図書館分館に足を運んでおります。現在、展示コーナーでは、暮らしの手帖創刊70周年特別企画として戦中戦後の暮らしの記録を展示しております。多くの市民が戦後の70年、また戦中に思いをはせて、これから先の平和な社会、世界をどう築いたらよいか考える機会となっております。本の寺子屋では延べ437名の参加があり、いずれの回も好評を博しておりますし、子ども本の寺子屋では16人の子供たちが図書館マスターを目指して日々頑張っております。

子育て支援センターでは、子供と一緒に楽しく遊んだり子育て情報を相互に公開し合ったり、また不安や心配なことを職員に相談したりすることができる場所としてその存在が浸透し、遊びや会話、相談を通して他者とかわることで安心することのできる施設となつてきております。そうしたこともあつて月齢の低い乳幼児の利用が広がってきたり、また休日での父親の利用がふえてきたりして家族みんなで楽しむ姿がふえてきております。子育てしやすいまちへ向けた取り組みの成果があらわれてきているのではないかなと思います。これから先も、それぞれ三者三様の人づくりの場としての機能を高めていきたいと思つています。

次に、広島平和研修と平和祈念の集いについて考えたこととお話いたします。今回、広島平和教育研修に参加した生徒の思いが平和祈念の集いの中で発表されました。広島青少年平和の集いにおいて被爆者の講話を聞き、平和をどのように伝えるかについて若者同士でグループディスカッションをし、平和記念館、平和記念公園、原爆ドームを見学し、平和記念式典に参加してきた生徒たちであります。多くの生徒は戦争や原爆の悲惨さを実感し、核兵器や戦争のない世界を目指さなければならないとの強い意志を持って帰ってまいりました。そしてそのために個人が互いに、また国同士が互いに認め合い尊重し合える関係づくりを進めなければならないと自分たちがその役割を果たすためにまずできることから行動していかなければならないとそれぞれが考えております。中には、「理想論だが私たち若者が平和と真剣に向き合い、食欲に平和を求めて行動し、その輪が世界に広がり世界中全ての人々が平和を願い行動を起こすようになれば戦争や核兵器のない世界をつくることは可能なことだと思う」という生徒もありました。こうした純粋な意志と行動への思いに期待するところ大であります。それと同時に、教育を預かる私たち自身も、平和都市推進宣言をしている本市において本市の教育行政の中でどう運営し、持続可能な社会を開いていく人材を育てていくこ

とが必要なのか考えていかなければならないと思っただころであります。

最後に、2018信州総文祭について報告いたします。全国から2万人ほどの高校生が集まる文化部のインターハイとも呼ばれる2018信州総文祭が長野県下各地を会場に繰り広げられました。開催部門は、毎回共通して取り上げられる演劇、合唱などの19部門と長野県が独自開催するボランティア、軽音楽など9つの協賛部門、合わせて28部門で行われました。そのうち塩尻市では、レザンホールを会場に日本音楽部門が8月10日、11日の両日開催されました。今回私は松本市の芸術館で開催されました総合開会式とレザンホールで行われました日本音楽部門を見させていただきました。そこで感じたことを一言で言うならば、高校生たちの可能性の大きさであります。具体的に言うならば、1つは高校生たちが自分たちのやりたいことやすべきことを任せ、そこに心血を注ぎ込むことによって主体性や創造性を存分に発揮し、より価値の高いものをつくり出していくことができるということです。総合開会式の進行、運営やステージ上でのパフォーマンスを繰り広げた多くの高校生のはつらつとした姿から、そうしたことがストレートに伝わってまいりました。こうした高校生の力は十分信頼に値するものだと思います。

もう1つは、この一大行事を成功させるために関わった総文祭生徒実行委員会や各部門の実行委員会、そして運営サポートに当たった多くの生徒のチーム力であります。全県にわたるこれだけの大規模な大会を運営していくためにはどれだけの配慮と準備が必要であったか、想像を絶するものがあるかと思えます。そうしたものを1つ1つ丁寧に進め、最終的には成果に結びつけるためにはチーム力が不可欠であります。学校も違い、地域的にも離れた生徒が集い、限られた時間の中で着実に成果に結びつけた高校生のチーム力、チームでの推進力、これもまた十分に信頼に値するものだと思います。17日の信濃毎日新聞に掲載されました生徒実行委員の思いを読むと、同じ目標に向かい、意見をぶつけ合いながら取り組むうちに仲間同士の絆が深まり、情熱を傾け合ってつくり出し、完全燃焼してかかわることで成功に導いた満足感が伝わってまいりました。全ての生徒が人間的に大きく成長したことが読み取れました。こうした学校を超えた仲間と1つの目標に向かって心血を注ぎ、チームとしての絆を結びつつ新たな価値を創造していくような取り組みは、高校生に限らずたとえ取り組みの規模は小さくても教育的に大きな価値があるのではないかと、思ったところあります。大変長くなりましたが、以上で私からの報告を終わりにいたします。

報告についての御質問がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

○報告第1号 主な行事等報告について

山田教育長 それでは、報告第1号、主な行事等報告についてお願いいたします。本日の資料、1ページから9ページまでであります。事務局より、主要な行事について説明をお願いいたします。

羽多野子育て支援センター所長 それでは、一番上でございます。7月14日、おいでおいでまつりを市民交流センターの3階のフロア全体を利用して開催をいたしました。市民交流センターの企画事業といたしまして子育て支援センターと図書館と交流支援課が共催をいたしまして、市民交流センターを利用されている子育て世代を対象といたしました夏祭りでもございました。子育て支援センターでは縁日、木のおもちゃで遊ぶ部屋、図書館では絵本のお部屋としておはなし会の開催、交流支援課では紙コップと割り箸を使った風車づくりなどを行いました。また当日は松本短期大学の幼児保育学科の生徒4名も参加をいただきまして、各コーナーのお手伝いを初めイクメンジャーショーの上演、メダルを作製させる親子工作など、学生ボランティアとして御協力をいただきました。多彩な催しにたくさんの親子連れに御参加をいただきお楽しみをいただきました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

百瀬家庭支援課長 それでは、2ページをお願いいたします。7月31日、8月3日の両日、市内の

小中学校教職員を対象に特別支援教育研修会を開催いたしました。7月31日は和歌山大学教授の米澤好史先生による「愛着障害の理解と支援」と題しまして愛着障がいと発達障がいの違いや支援方法などについて御講演いただき、理解を深めることができました。また、8月3日は中信地域の特別支援学校7校の特別支援教育コーディネーターによる「子どもの困ったに寄り添う疑似体験プログラム」として書く、聞く、読むの困難さを実体験しまして、子供の気持ちを理解をし、どんな言葉がけが有効なのかなどを学ぶことができました。両日で303人が参加し、特別支援教育の理解を深めることができました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。続いてお願いします。

山崎交流支援課長 4ページ、7月21日の土曜日、ちびてつ2018（第1回）です。ちびてつはちびっこ哲学ということで、子供たちに考えることの楽しさを掘り下げてもらうための信州大学の学生の企画運営による事業です。もともと8年前に信大の准教授の有路憲一さんの考えるゼミを受講していた当時の信州大学1年生が「小さな哲学者たち」というフランスのドキュメンタリー映画を見たことをきっかけにして有路さんに協力を仰いで有志として立ち上げた活動です。当初は公園にいる子供たちに声をかけて始めたということで、細々とやっていたようですが、それを当時の市民交流センターの職員が興味を持って、市の事業として子供たちの考える力を引き出すワークショップという形で始めて、今年で6年目となります。特に保育園の子供たち、あるいは小学校低学年の子供たちのような、これからいろいろと考えていくという子供たちを対象にしています。子供たちが身近なことに興味を持ち、もうちょっと掘り下げて考えるきっかけづくりとしてもらう取り組みです。今年度第1回目はアイスブレイクとして学生と子供たちが仲良くなるきっかけづくりのゲームをした後、好きってどんなこと、というテーマから始めました。例えば好きな季節ならば、暑い夏が好きな場合、どうして夏が好きなのか。暑いから、プールがあるからなど、子どもがそれを掘り下げていく。あるいは好きな花は何か、好きな料理は何か、どうして、どうして、どうしてと考えることから始める。第1回はそんなところで終わりました、9回まで続けていくイベントです。

山田教育長 ありがとうございます。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） 資料5ページの第2番目でございます。本日、平出博物館長が出張のため欠席でございますので、私がかわりに報告させていただきます。チャレンジ子どもミュージアム第1回目でございます。今年度計7回を実施する中の第1回目、並びに次のページ6ページには第2回目、それから9ページには第3、第4回目を実施したものでございます。第1回目は7月28日に「星ふる里めぐり」ということで黒耀石を使ったキーホルダーづくり等を実施いたしました。また、8月3日には「火星大接近観察会」第1回目ということで、こちらはひらいで遺跡公園において天体望遠鏡を使って15年ぶりに接近いたしました火星の観察会をいたしました。ページおめくりいただきまして9ページは、8月11日、12日に「縄文風小屋づくり」1回目、2回目を行ったものでございます。私ごとではございますが、自身の息子も1回目、2回目に参加いたしまして、大変おもしろかったと言っておりましたので、平出をいろいろな視点から活用できるという意味ではとてもよいイベントではなかったかというように考えております。

続きまして社会教育課の分でございます。5ページの3段目、7月28日、詠み会in塩尻を実施いたしました。この市民交流センターの多目的ホールにおきましてお笑い芸人フルーツポンチの村上さん、みのるチャチャチャさん、あと歌人の小島なおさんによるトークイベントを開催したものでございまして、1時から3時から2回開催したものでございまして、それぞれ約30名余の方においでいただき、計70名の方に参加いただきました。村上さんらがつくりました短歌を講評するとともに即興でつくっていただいた参加者の短歌も皆さんから選評をいただき、楽しい雰囲気の中で短歌に触れることができたのではないかと思います。私からは以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

上條図書館長 6ページをごらんください。上段、中段に記載しております信州しおじり本の寺子屋学校職員向け講座について報告いたします。毎年行っている学校職員向け講座ですが、教育センターの教員向け夏期研修に位置づけて、ことしは初めて2日連続で2人の講師を招いて実施いたしました。市内外の教員、学校司書などを中心に御参加いただきました。1日目はグループに分かれての調べ物のワークショップ、2日目は学校図書館を生かした学びのあり方についての講義でした。学校図書館が読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を最大限に発揮する上で大変参考になる講座でした。このほか、この間、子ども本の寺子屋も含めましてさまざまな事業を展開してまいりましたので記載をごらんください。なお、教育長報告でも触れていただきましたが、現在図書館企画展示コーナーにおきまして暮しの手帖70周年記念出版『戦中・戦後の暮しの記録』の企画展を実施しております。戦争の記憶を記録として継承し、平和を希求するという趣旨の展示でございます。きょう、えんぱーくに御来館いただいておりますので、ぜひごらんいただければと存じます。よろしく願いいたします。

山田教育長 ありがとうございます。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） 資料9ページの中段でございます。先ほど教育長さんからの御報告がありましたが、今年度第42回全国高等学校総合文化祭日本音楽の部がレザンホールにおいて8月11日、12日と行われたものでございます。来場者数につきましては延べ2,800人余の方に来場いただきまして、高校生の皆さん、出場者約1,500人、またそのほかにも会を運営するために県内から高校生約100名以上の方がスタッフとして参加をし、スムーズな大会が実施できました。私も12日に見させていただきましたけれども、本当に皆さん、スタッフの誘導等もスムーズでございましたし、参加された高校生の方、本当に真剣に演奏している姿に感動を覚えたということで、成功裏に終わったのではないかと思います。私からは以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、ただいまの報告につきまして委員の皆様方から御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

林委員 4点ほどお願いします。まず7月14日のおいでおいでまつりですけれども、1,246名の方が参加した。これはとてもすばらしい企画で、松本短大の将来幼児教育に携わるであろう生徒たちがボランティアとして小さい子たちに触れるとてもいい機会だと思います。大成功ということで本当にうれしく思いました。

次に、7月28日の詠み会 in 塩尻ですけれども、これは当初1時と3時の2回開催で、各100名募集でしたが、どのくらいの方が参加したのかすごく興味を持って見たところ、70名という数字は少し残念でした。テレビ等でもフルーツポンチの村上さんは俳句のほうで名人の実力を持っていて非常に評価が高い方ですけれども、やはり何回も呼んで来ると若い世代の人たちも飽きてしまったのかどうなのか、今後どういう形でこの企画を持っていくのかをお聞きしたいです。

後、8月4日のえんぱーくで夢を見つけようという企画で南極地域観測隊の方がお話しして下さったようすけれども、参加者数が10名というのは、これは何かいろいろ行事が重なったのか、中高生にしてみれば夏休みは忙しいということなのか残念な数なんです。かといって「わらべうたファミリーコンサート」の方には100名近くの方が来て下さっています。何かあんまりいろいろと盛りだくさんにすると参加者が少なくて、せっかく来ていただく講師の先生に余り少ないと失礼ではないのかと思います。いつもこういう数字だけを見て判断してはいけないのですが、10名の方が何か1つでも心に残るポイントを聞き取っていただくことは全く意味のないことではないと思いますが、ただ余り少ないというのは如何なものかと思いました。

最後に8月11日、12日両日の信州総文祭の日本音楽部門の発表を2日目に見せていただき

ました。まずレベルの高さに圧倒されました。演奏は全員が呼吸を1つにして互いの音を聞いて奏でる。そして作曲者の意図することを表現するという一方で、ピチカートの手的位置や手の高さまでもみんな同じに合わせているということは、徹底した指導力と練習量の表れだと敬服しました。全ての学校が甲子園みたいに1つの頂点を目指して、国立劇場での演奏、その4校に選ばれることを目指して一糸乱れずに演奏する姿は、私自身箏曲に40年以上も携わっていますが、恥ずかしながらもまだ到達したことがない領域まで高校生みんなが到達していることを感じ、日本音楽の明るい未来に大いに期待を持ちました。

それと、おそろいのTシャツに身を包みボランティアに徹していた地元の高校生のことですが、スムーズな運営と、裏方に徹し、事細かに決められたタイムスケジュール通りにフットワーク良く動いていました。本番の様子から準備段階からどれ程一生懸命頑張ってきたのかが伺われ、本当にお疲れさまでしたと、皆さんに拍手を送りたいところでした。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。質問の部分、どうぞ。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） 私からは詠み会 in 塩尻について御報告させていただきます。

2回の参加者合計が70名ということで、残念だったのですが、たまたまこの日、玄蕃祭りの当日でございまして、台風が近づいていたということで中止になりました。当初、玄蕃祭りの本祭りが夕刻でしたので、開始までに通りに人がいれば、えんぱ一く前にて呼び込みをし、たくさん集めようということを考えておりましたが、何分にも人の出が少なかったということで、事前告知のまま開始してしまったということです。今後のこういった企画を、玄蕃祭りがなかった場合でも、こういった形で周知して人を集めるかというところは、十分検討しながら、行っていきたいと思います。また村上さんの認知度ということで期待をしたのですが、知ってる人は知ってるけど、知らない人は知らない、興味がない人は興味がないというところでした。ただ、実際参加された方の意見をみますと本当におもしろかったという意見がありましたので、その辺の生の声を外に発信するようなことをし、来年以降も、実施するようであれば、よりよい周知もできるのかなというように考えてございます。

山田教育長 はい。

山崎交流支援課長 えんぱ一くで夢を見つけようについてお答えします3階のフロアは、中学生や高校生が、かなりの人数で休みの日に来て勉強していますが、行事に参加してくれるかというとなかなか参加してくれないということが、実は一つの課題になっています。少しでも多くの中高生に参加してもらおうというきっかけづくりの一つという意味合いもあり、えんぱ一くで夢を見つけようということを企画しました。でありますので、定員も、最初から何十人も集めようとは決めずに、15名で、少数精鋭で行っております。今回ちょっと定数には満たなかったのですが、10人集まったということで、少しずつ広げていければいいかなと思っています。

あとタイミングといったところもありまして、全国総文祭の直前ということもありましたので、いろいろなタイミングを見図りながら、こういった企画を考えていきたいと思っております。

また、図書館では「しおり部」を立ち上げ、高校生を中心に図書館をどうしていったらいいか考えるという試みを、えんぱ一く全体としても取り組み始めていますので、御注目いただければと思います。

山田教育長 よろしいでしょうか。

林委員 ありがとうございます。

山田教育長 続いてお願いします。

小澤教育長職務代行者 浅い感想を述べます。今回も事務局のほうでは、いろいろな動きだとか世の中の願いを敏感に酌み取って、常に新しいものを創造していく姿勢、その姿勢に敬意を表しつつ、

頼もしいなと思います。それで、行事について3つ、浅いところで感じたままを発表いたします。

1つ目です。教員の悉皆研修で感じたことです。今年も例年同様に開催されたわけであります。見ますと、大勢の教員が言葉は適切かどうかわかりませんが、素直に穏やかに参加している、その姿に私は変な感心をいたしました。私たちの若い頃というのは、世相が大いに影響を与えていたと思いますが、官製のものには、身構えるというか、疑問視あるいは抵抗の姿勢を見せたんです。しかし、今の若い方々は素直である。これはいいことか悪いことかわかりませんが、そんなところからも世の移ろいを思いました。

それで、英語研に参加する中でわたしが目を留めたのは教職員のアンケートです。先生方の不安とするところ、ずっと一覧表を読んでみますと、上位のほうには、例えば、自分の教え方あるいはやり方がこれでいいのかとても不安、指導上の悩みが書かれています。言ってみれば指導をする中でこんなことは当たり前のことなんです。常に不安がある。だから、こういう気持ちがあるところにのみこそ、私は自己開発とか前進があると思いますので、この謙虚さを常に持って、自分なりのスキルアップをするような、そんなプロセスを持ちながら自分の力を磨いていってほしいと、そんなことを悉皆研修を通しながら感じました。

2つ目は平和の集いであります。今年も同様に平和の集いの中で中学生が広島で体験した報告を述べてくれました。私が、その作文のなかで共通してあれ、おやっと思ったことをちょっと述べてみたいと思います。その一つ、彼らは心を揺さぶられる事実とじかに出会う、これが大事なところなんです。心揺さぶられる事実とじかに出会う。そして、次に、友達と意見交換をする。これが大事。ディスカッションをする。その中で自分の考え方、見方を深める。そして、これから自分は何をするか、何をやったらよいか、この糸口をつかむ。この子供たちの作文のプロセスを見たときに、これはまさに文科省が狙っている深い学び、そのものだと思ったわけであります。本当にうれしく思いました。深いなあと思います。聞いていて私はこういう感動的な出会いに出会わせてもらえる中学生、うらやましいなあと思ったわけあります。

さらには、自分たちの今は、一見、平和で何の苦しみもない、穏やかな日々が過ぎていく、こういう生活を送っている。でも、よくよく見ると、この社会の中には矛盾らしきものがあるということに気がついてくる。広島や研修を通して、社会の皮を一枚めくると、何か矛盾なものがそこに流れていると気がつく。そして自分なりに問いを發し、こうやっていきたいとの願いをもつ。こういう記述が流れていたわけであります。研修を体験した若者の目は鋭くなっていくだろうな、そんなこと思いました。これらを見ても、このイベントは年々進化しているわけであります。青少年にとって、大事なイベントですので、末永く続けていってほしいと、そんなこと思いました。

会場には、小学生の子供を連れた母親がちらほらおいでになりました。これも一つの特徴であります。平和へのともしびは、静かにともされ続けている。この火を大事にしたいなと、そんなことを思いました。

3つ目は感動的な総文祭であります。全国を回ってくるから、今度来るときは、はるかかなたのときだと思います。長野県はいい機会をいただいたと思います。さて、二十幾つかの演目とか種目が、県下一斉に開催されました。この県下一斉というところが私は大事だということを思います。多分、あそこで企画をしたり、サークルの演奏している子供たちの心の中には、自分たちみんなが一斉にやってる、こういう気持ちを感じ取ったんじゃないかな。連帯感と言ったら、きざになるわけでありますが、そういうものを感じ取ったんじゃないかなと思います。

私は箏一台か二台が奏でているのを聞いて、うまいなあと軽く思ったことはありますが、あれだけ集団で、連弾というのか何というのかよくわかりませんが、集団で弾いている、あの姿に圧倒されました。地区大会を上ってきているから技術的には当然すごいと思うんですが、全身で弾くあの姿はすごい迫力。高校生ならではと思ったわけであります。会場には市民の皆さんが大

勢いたわけでありますけれども、やっぱり若者の催しっていうものは人を引きつけるなあと改めて思いました。

そして最後に教育長も言っていましたけれども、私たちの頃は、高校間はばらばらだった。むしろ敵だった。ところが今回の総文祭を機会にして、長野県の個々の高校が固まった。気軽に声をかけ合う、親しみがぐーんと増したと思うんです。このことは計り知れなく大きいことだろう。獲得した技とかスキルとか以上に、気持ちの面で、長野県の高校生がこれを機に固まってきた。これは大きいことだなあと思います。

欲を言いますと、なぜあそこに小中学生が参観していないのかということ、終わってみて、自分がそこに身をおいてみて、ああ小中学生がもっと来てくれればいいのになと後悔めいた気持ちがありました。先輩たちのあの躍動している姿を見、高校ってこんなにも夢や希望に満ち溢れている。中学生は、これを求めて進学する。長野県の本当の意味での学力がグレードアップするのではないかなと思いました。今後、塩尻でこのような催しがあれば、小さい子供たちが参観できるような、投げかけをしていくことができればと思いました。以上であります。

山田教育長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

石井委員 お願いします。それでは2点述べさせていただきます。

1点は、皆様おっしゃっている総文祭についてですが、私も8月7日の松本市での開催式、報道という立場もございまして、仕事を含めて参加をさせていただきました。当初こういうものだという情報が少なかったこともありまして、逆に大変なインパクトを受けたわけでもございまして、皆様御報告でお話されているとおり、それ以上の大きな、成果があったのではないかと思います。持ち回りでやられておる大会ということで、長野県で今年開催されたのもいいタイミングにぜひしていただきたいなと思います。文化系の皆さんが、日ごろ取り組んできた成果がこういうスケールで発表できたということ、そしてまちの皆さんがそれをごらんだけだったということ、ことしならでは、大きな成果になるかと思えます。お子さん方には自己肯定という中で、自分たちがやってきた取り組みが評価されるということ、また高校生に限らず今後、何かまちでの動きがあるときに子供たちと共同をしていける、そんなノウハウの一つにぜひしていただければなあと感じております。今後、取り得る機会をぜひふやしていただきたい、経験を生かしていただきたいというふうに願っております。

それともう1点でございますが、直接事業と関係は薄いかと思えますが、6ページ、信州しおじり本の寺子屋ということで報告がございました。その中の7月31日のところの成果に学校長や教員の関心と協力が課題だという文章がございました。関心を持ってないということではもちろんないと思うのですが、どういうふうに今後進んでいくかという中で、ぜひ学校図書の充実をさらに図っていただきたいなというふうに感じております。

図書館の司書の先生と話す機会があるんですけども、その中で聞かれる要望は定番的な本はいとしても、資料として学習に使うものが実際にもう、20年30年経過しておるということで、あきらかに内容が今のものとかみ合わないという、御指摘もいただいております。当然費用がかかることなのですぐに解決できるかという、そうでもないかとは思いますが、ぜひ現場の充実という中では、先生方の理解も得ながら、またこういった要望だということも酌み取っていただきながら、一層図書の充実を図っていただけるようお願いをいたします。以上です。

山田教育長 それでは、要望ということでよろしいですね。いいですか。

それでは、ほかはないようでありますので、次に進みます。

○報告第2号 9月の行事予定について

山田教育長 続いて、報告第2号、9月の行事予定についてお願いいたします。資料の10ページを

お開きください。9月もたくさんの行事が開催されます。しおじり子育て応援イベント、それから、ひらいで遺跡まつり、本の寺子屋、先ほど話題にもなりましたが、tent学校とはちょっと違う学び、市民音楽祭、それから全国短歌フォーラム in 塩尻、等々がございます。また、御都合のつくところで御参加いただいて、子供たちの様子、市民の姿をごらんいただければありがたいと思います。15日とそれから22日の土曜日、それぞれ市内小学校の運動会が開催されますので、御参加をお願いいたします。また28日それから29日、ここでは中学校の文化祭が各校で行われます。広陵中学校は開校30周年を迎えますのであわせて式典が行われます。これもまた、御都合のつくところで御参加いただければありがたいと思います。9月の定例教育委員会、協議会ですが27日に行います。通常どおり、総合文化センターでの開催となりますのでよろしくをお願いいたします。

行事予定について御質問ありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。それでは、次に移ります。

○報告第3号 後援・共催について

山田教育長 報告第3号、後援・共催についてであります。資料11ページ、12ページになります。ごらんいただいて、御質問、御意見ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「いいです」の声あり〕

山田教育長 ありがとうございます。それでは、次に進みます。

○報告第4号 塩尻市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱に係る専決処分報告について

山田教育長 それでは報告第4号、塩尻市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱に係る専決処分報告についてであります。資料の13ページになります。事務局から説明をお願いいたします。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） それでは、塩尻市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱に係る専決処分報告についてでございます。概要につきましては、塩尻市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員につきまして、役員の異動により、新たな委員を委嘱しましたので、報告をするものでございます。教育長専決としまして、30年7月12日でございます。任期につきましては、前任の委員の残任期間、平成30年7月12日から、平成31年3月31日までとなっております。

この時期に改正いたしましたのは、今回、この木曾平沢町並み保存会の役員を一斉改正をいたしまして、役員の長がなかなか決まらなかったということで、決まった7月12日をもって、お願いをしたものでございます。前任の宮原豊様から新任の齊藤寛親様に役員さんに、代表がかわりましたので、引き続き、委員を委嘱したものでございます。よって、現委員は8名、退任1名、委嘱1名と、新体制につきましても8名ということで、引き続き、塩尻市の伝統的建造物群保存地区の審議につきまして御諮問いただくという形でございますので、よろしくをお願いいたします。私からは以上です。

山田教育長 ありがとうございます。御質問、御意見ありましたらお願いします。

〔「なし」の声あり〕

山田教育長 ありがとうございます。それでは、報告のとおり御承知おきください。次に進みます。

4 議事

○議事第1号 学校職員に対する指導上の措置について〈非公開〉

山田教育長 議事に入ります。議事第1号であります。学校職員に対する指導上の措置についてであります。この件につきましては、個人情報を取り扱うため、非公開といたしますが、御異議ありませんか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 では、異議なしと認め、非公開として先に進めたいと思います。

【非公開部分削除】

それでは、非公開を解いて次に進みます。

5 その他

○その他第1号 平成30年度教育委員会関係補正予算（案）について

山田教育長 その他第1号、平成30年度教育委員会関係補正予算（案）についてであります。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

太田教育総務課長 それでは、本日配付の資料の1ページをお願いいたします。資料No. 5、市議会9月定例会に提案いたします一般会計補正予算第6号になります。表のNo. 1が教育総務課になりますが、10款教育費1項教育総務費4目教職員住宅費の教職員住宅管理諸経費になりますが、改修工事ということで、194万4,000円の増額補正でございます。ブロック塀等の点検により、対応が必要となりました北小野教員住宅の鉄筋コンクリート塀、それからブロック塀につきまして、傾きや高さに危険性があると判断しましたので、一部撤去に伴う工事費の増額補正をお願いするものでございます。以上です。

青木こども課長 続きまして、その下2番になります。こども課の関係になりますが、3款2項1目児童福祉事務諸経費の前年度子ども・子育て支援事業補助金返還金になります。こちらにつきましては、病児・病後児保育、延長保育、放課後児童クラブ等に関する国の補助金で、補助率は3分の1となっております。この補助金の場合、該当年度は、前年の状況に基づいて概算で受けまして、翌年度に精算という形をとっております。よって、受入額が3,474万円余、精算後の実績額が3,175万円余ということで、その差額298万7,000円を返還するための増額補正をさせていただきます。以上です。

田下スポーツ推進課長 その下、No. 3、No. 4をお願いいたします。10款6項2目体育施設整備事業でございます。No. 3につきましては、営繕修繕料で、塩尻トレーニングプラザの自動火災報知機総合盤の非常用放送設備等の不備が、消防設備の点検の中で発見されました。営業をしている施設ですので、早急に修理をする必要があるため、修繕費の補正をお願いするものでございます。

その下、No. 4につきましては、工事請負費で、中央スポーツ公園の管理棟の併設トイレについて、薄暗くて利用しづらいという利用者等の御要望もありまして、トイレの洋式化と照明設備の改修工事につきまして、補正をお願いするものでございます。私からは以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

青木こども課長 続きまして、2ページをお願いいたします。歳入になりますけれども、まず1番、14款1項1目、こどものための教育・保育給付費負担金（過年度分）でございます。こちらの負担金につきましては、該当年度は、やはり前年の状況に基づきまして概算で受けまして、翌年度に精算という形をとっております。民間保育園、認定こども園の事業実施に伴います国庫補助金で、負担率は2分の1となっております。受入額が5,329万9,000円、実績額が5,383万円となっております。差額の53万1,000円を受け入れるための増額補正をお願いするもの

でございます。

続きまして、その下、2番になりますけれども、15款1項1目子どものための教育・保育給付費負担金（過年度分）で、これは先ほどの1番の県費分、県からの負担金となっており、負担率は4分の1でございます。受入額が2,665万円、実績額が2,691万5,000円となっておりまして、差額の26万5,000円を受け入れるための増額補正をさせていただくものでございます。補正予算につきましては、以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

小澤教育長職務代理者 2点お願いします。お聞きします。過日、市長の記者会見が報道されました。その中でエアコンの設置ですけれども、来年の夏までに全部の保育園128部屋、全児童館32部屋に設置すると言い切りました。その予算については、ふるさと納税とか子育て支援金が約2億2,000万円くらいあるから、それを充てる予定だと。そして、9月補正に提出すると、こう書いてあったわけです。すると、残りの6,000万円は一般財源から出ると思うんです。しかし、ここに記載はないんですけれども、そこら辺の整合ってのはどうなっているのか、1点、お聞きいたします。

2点目は、小中学校357教室を順次、これは順に設置していくと。そうしたときに、これは私の勝手な思惑なんですけれども、ひょっとすると、夏休みはもっと短くなっていくんだろうなど、そんな予見もするわけです。快適な環境のところでゆっくり勉強をさせる。今現在は、夏休みは長く、むしろ、後半はだらけてしまう。故に8月危機も心配されるわけです。エアコンもそんなところで、子供の気持ちの一助になると思います。補正予算については以上です。

太田教育総務課長 詳細については、この後の協議会で資料を提出して、お話をさせていただこうかと思っていたのですが、とりあえず、市長の記者会見でもありました、保育園と児童館へのエアコンの設置を先行して行うということで、来夏の使用が可能となるような段取りで進めたいと思っております。この9月補正については、期限が決まっているものですから、これには間に合わなかったという中で、議会最終日に、追加提案として補正予算を提案させていただく予定で今、処理を進めております。内容は、保育園、児童館のエアコン設置にかかる実施設計ということで、まず、設計費用が発生しますので、その費用の委託料を計上させていただき、工事を間に合わせるために、続けて12月補正で、工事費を計上していくことになると思います。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

小澤教育長職務代理者 ありがとうございます。

山田教育長 ほか、よろしいでしょうか。

石井委員 お願いします。1ページ、スポーツ推進課より、中央スポーツ公園のトイレ改修の工事について、御説明をいただきました。身近な施設の利便性が上がることは、大変ありがたいというふうに感謝するわけでございます。ただ、スポーツ施設に限らず教育に関する施設、特に学校におきましては、今までと学校の来訪者の変化も含めて、使用する中身がちょっと変化してきているという指摘もいただいております。継続的に洋式化を求める声も、PTAのほうからも挙がっておるはずでございます。また、今後どのように対応していくか、御予定があれば教えていただきたいと思っております。お願いいたします。

太田教育総務課長 トイレの洋式化につきましては、洋式化率の低い学校から、順次、手を入れていきたいということで計画をしているところですが、今年度、吉田小学校と塩尻中学校の大規模改修ということで、まずはトイレ改修に交付金が決定しましたので、吉田小それから塩尻中は、今年度、洋式化となります。あとは順次、優先順位という形の中では、先ほど申し上げた洋式化率の低い学校から、改修を進めていきたい考えです。ただし、エアコンの設置が急務という中で莫大な費用がかかりますので、その他の大規模改修等は、少し見送らざるを得ない可能性もありますので、御承

知おきをいただきたいと思います。以上です。

山田教育長 よろしいでしょうか。

石井委員 また今年度は、今年度の状況を踏まえた要望も出てくるかなという気がしておりますので、ぜひその辺は、実現はいつというのはさておき、方向づけだけは捉えていただければ、大変ありがたいなと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

山田教育長 ありがとうございました。

それでは、その他第1号、平成30年度教育委員会関係補正予算（案）につきましては、ただいまのように御承知おきいただきたいと思います。それでは、次に進みます。

○その他第2号 教育委員会事務局に係る例規の改正（案）について

山田教育長 その他第2号、教育委員会事務局に係る例規の改正（案）についてでありますけれども、資料の14ページに戻ります。事務局から説明をお願いいたします。

青木子ども課長 それでは、塩尻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正についてお願いいたします。

まず（1）番、改正の理由でございますが、国の幼稚園就園奨励費補助金交付要綱第3条第3項に定める補助限度額に改正がありましたことから、塩尻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱第3条第2項中にある限度額を、それに合わせまして改正させていただくものでございます。

（2）の概要でございますけれども、就園奨励費とは、学校教育法に基づいて設置をされた私立幼稚園の設置者が行います保育料及び入園料の減免措置に対しまして、予算の範囲内で補助金を交付するものでございます。改正内容につきましては、市民税の所得割課税額が7万7,100円以下の世帯、こちらの限度額につきまして、現在、第1子が13万9,200円となっているものを18万7,200円に、それから第2子、2番目のお子さんですが、現行、22万3,000円となっているものを24万7,000円に、それぞれ引き上げるものでございます。

（3）の施行日等につきましては、本年度の補助金から適用させていただくものでございますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

山田教育長 ありがとうございました。御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

〔「いいです」の声あり〕

山田教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、その他第2号、塩尻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正につきましては、説明のとおり、御承知おきいただきたいと思います。

○その他第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について

山田教育長 その他第3号に移ります。15ページをお開きください。平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について、お願いをいたします。事務局から説明をお願いします。

太田教育総務課長 それでは、資料15ページ、平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表についてになりますが、公表内容等につきましては、昨年度までと決定事項に変更はございませんので、その他案件としまして御確認をいただきたいと思っております。

まず、公表の方法ですが、市教育委員会としましては、市民に対してはこれまでと同様に、結果の概要、それから分析結果を公表いたします。また、過度な競争や序列化等を考慮し、市全体の平均正答率、数値等の公表や、学校名を明らかにした公表は行わないこととします。学校は、これまでと同様に結果の概要や分析、学校の取り組み等について、自校の状況を報告するものとします。

今後の予定等につきましては、本年4月17日に、小学6年生及び中学3年生を対象に調査が実

施されております。また、7月24日には文部科学省から教育委員会に、27日には各学校に、それぞれ結果通知が届いております。文部科学省の調査結果公表は、7月31日となっております、例年よりも1カ月ほど早い公表となっております。

本市におきましては、来月9月の教育委員会協議会にて、公表内容について御説明させていただき、10月25日の定例教育委員会で、公表内容を決定いただきたいと思いますと考えております。公表は12月1日を予定しております、広報、それからホームページに記事の掲載を予定したいと思います。

現在、文部科学省から通知がありました結果データをもとに、市教育センターにおいて内容の分析を行っている状況でございます。例年どおりの内容で実施したいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。御質問、御意見ありましたらお願いします。

石井委員 公表方法の(2)学校についての記載の中に、学校の取り組み等について、自校の状況を公表するという内容がございます。ということは、学校ごとに保護者や地域住民に対して伝える内容には差があるということでしょうか。

太田教育総務課長 それぞれ各学校宛てに文部科学省から結果が送られて、子供たちにその学校の状況というのが通知として配られる中で、先生方が、例えば正答率の低い問題について、どういう取り組みをしていけばいいか、それから今どんな取り組みをしていてこれは成果になっているのか、というようなところをそれぞれの学校の中で分析をします。今やっている効果のある取り組み、それから今後工夫していったほうがいいのかという取り組みを、それぞれの学校において、まとめたものを地域やそれから保護者の方に対して、学校だより等で公表しております。

石井委員 そうすると市全体として、こういった対応をしていくというまとまった方向づけみたいなものはないということでしょうか。

太田教育総務課長 市の全体の傾向と課題等につきましては、市教育センターで分析研究を進めておりまして、全体的な取り組み等については、教育委員会事務局で方針等をまとめまして、最終的には10月の定例教育委員会でお示しさせていただいたものを決定いただいて、公表していくという形になります。ですので、市全体は市教育委員会、それぞれの学校ごとは学校ごと、それぞれで公表等をいたします。

石井委員 わかりました。ありがとうございます。

林委員 一点いいですか。試験を受けた子供たち、小学校6年生、中学校3年生には結果については、7月27日の時点では渡っているのでしょうか。

太田教育総務課長 それぞれ結果のほうは個別に数字が出ていますので、担任の先生から結果についてはフィードバックされているはずですし、使われた問題等についても子供たちに返されていますので、それをもとに振り返りもしているかと思っております。

林委員 わかりました。ありがとうございます。

山田教育長 よろしいでしょうか。それでは、その他第3号につきましては、案の説明のとおり進めさせていただきますので、御承知おきをいただきたいと思います。

○その他第4号 平成30年度第32回全国短歌フォーラム in 塩尻（一般の部）投稿数について

山田教育長 続いて、その他第4号、平成30年度第32回全国短歌フォーラム in 塩尻（一般の部）の投稿数についてお願いいたします。資料16ページです。事務局から説明をお願いいたします。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） それでは、資料16ページでございます。平成30年度第32回全国短歌フォーラム in 塩尻一般の部の投稿数の結果でございます。過日、

投稿を締め切りまして、本年度の投稿歌数が確定いたしました。投稿者数につきましては、1, 190名の方から投稿をいただきまして、前年度比、201名の減、投稿歌数につきましては2, 282首、前年度比、389首の減という残念な結果となってしまいました。

中段の投稿者の年代別、性別等をご覧いただければおわかりなるといえますけれども、この投稿全体の9割を占めている方が60歳代以上の方でございます。やはり投稿の減になっているところも、高齢の方々の投稿数が減っているということが大きな原因であるということが一つ。それから、インターネットからの投稿数が前年は増えたのですが、今年度については、軒並み減っているということでございます。この結果を受けまして来年度以降、何かしら検討をしなければいけないということを痛感しているところでございます。補足でございますが、広丘公民館で独自に開催しています短歌の会がでございます。こちらのほうは順調に投稿数は伸びているということを知っておりますので、なぜ増えているのか、なぜこちらは減っているのかというところを十分検証した上で次年度に臨んでいきたいというところでございます。私からは以上です。

山田教育長 ありがとうございます。御質問、御意見ありましたら、お願いいたします。

小澤教育長職務代理者 表を拝見いたしまして、ここにも高齢化の波が押し寄せているなあということ強く感じるわけです。60歳代以上の方が、投稿をあきらめてきているかなど。高齢による理由というか、あるいは他の背景というか、どんなところにあるのだろうかを知りたいわけです。知るような術、それを掴むべく、当日アンケートを配ったかなとも思うんですが、今ここで、もうちょっと深く投稿者の思いをくみ取る。そんな心持ちで早く手を打っていきなと、そんなことを思うわけです。いかがでしょうか。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） 職務代理がおっしゃるとおり、投稿される方の思いがどういったところに移っているかというところは、事務局のほうではなかなかわかりかねるところでございますので、ぜひ生の声を聞く中で対策をとっていきなという考えでございます。最近の傾向としまして、優秀歌を割と若い方が受賞されておりますので、その辺がまた時代とともに変わってくるかなというふうに感じてはおりますけれども、何分にも長年投稿いただいた方の思いがくじかれなように、何とか事務局のほうも努力していきなと思っておりますので、また御指導のほど、よろしくお願いいたします。

山田教育長 ありがとうございます。ほかにはございますか。

〔「なし」の声あり〕

山田教育長 ありがとうございます。それでは、その他第4号につきましては、説明のとおり御承知おきをいただきたいと思います。

それでは、以上で本日の予定された案件は終了いたします。その他、委員の皆様方からこの際何かありましたらお願いいたします。

石井委員 お願いします。本日、タイミングよくなんですけども、本日付の市民タイムス塩尻版一面に、檜川小学校に東京からでしたか、女の子さんが、夏休み期間中ということなんでしょうか、お見えになって学校へ通っていらっしゃるといふニュースがございました。以前には檜川地区は、修学旅行に行った際に、宣伝の紙を配ったらそれを見て移住してきた方がいらっしゃったと。非常にレアなケースかなと思って、聞いていたんですけども、本日、あのニュースを見ますと、やはり継続的に取り組んでいくことは効果が出てくるものだなということと、これは単にお子さんがその学校で学ぶというだけにとどまらずに、恐らくは、定住を含めたまちづくりに及んでいく内容ではないかなと感じております。今は、学ぶことという範疇で語られておるわけでございますけれども、ぜひこれをまちの底上げ的なところまで発展させていただければありがたい。また我々もそれに協力していきたいというように考えております。ぜひそのようなお含みをいただきまして、今後できることがあれば協力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

山田教育長 ほかにありませんでしょうか。よろしいでしょうか。その他事務局から何かありましたらお願いいたします。

青木こども課長 それではこども課から1点、行事予定にもございましたけれども、子育て応援イベントの御案内をお願いしたいと思います。お手元にお配りしたカラー刷りの資料をごらんいただきたいと思います。こちらは例年開催しております講演会でございますけれども、今年は9月1日の土曜日、午後1時から二部構成で開催をさせていただきたいと考えております。

まず第一部としましては、教育評論家の松居和先生の講演会ということで、幼少期における家庭ですとか地域での子育ての大切さについての講演会。それから第二部としまして、松居先生に加えまして、松居先生の妹さんになりますが、絵本のわにわにシリーズで有名であります、絵本作家の小風さちさん。それから、小口市長にパネラーになっていただきまして、松本短期大学の内藤美智子先生をコーディネーターにお迎えをする中で、それぞれの立場から塩尻の子供たちの未来について語っていただきたいと考えております。また同時開催としまして、小風先生のわにわにシリーズの原画展、それから学校給食レストランも開催をさせていただきますので、大変お忙しい中ではございますけれども、ぜひ御参加いただければと思っております。よろしくお願いいたします。こども課からは以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。ぜひ参加のほう、よろしくお願いいたします。ほかにありませんでしょうか。

6 閉会

山田教育長 それでは、以上をもちまして8月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午前10時23分に閉会する
以上

平成30年9月27日

署 名

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員 教 育 総 務 課
教 育 企 画 係 長
